



# 適 性 検 査 B

( 10 : 45 ~ 11 : 30 )

## 注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題冊子の 1 ページから 6 ページに、問題が **1** から **2** まであります。  
これとは別に解答用紙が 1 枚あります。
- 3 問題冊子と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

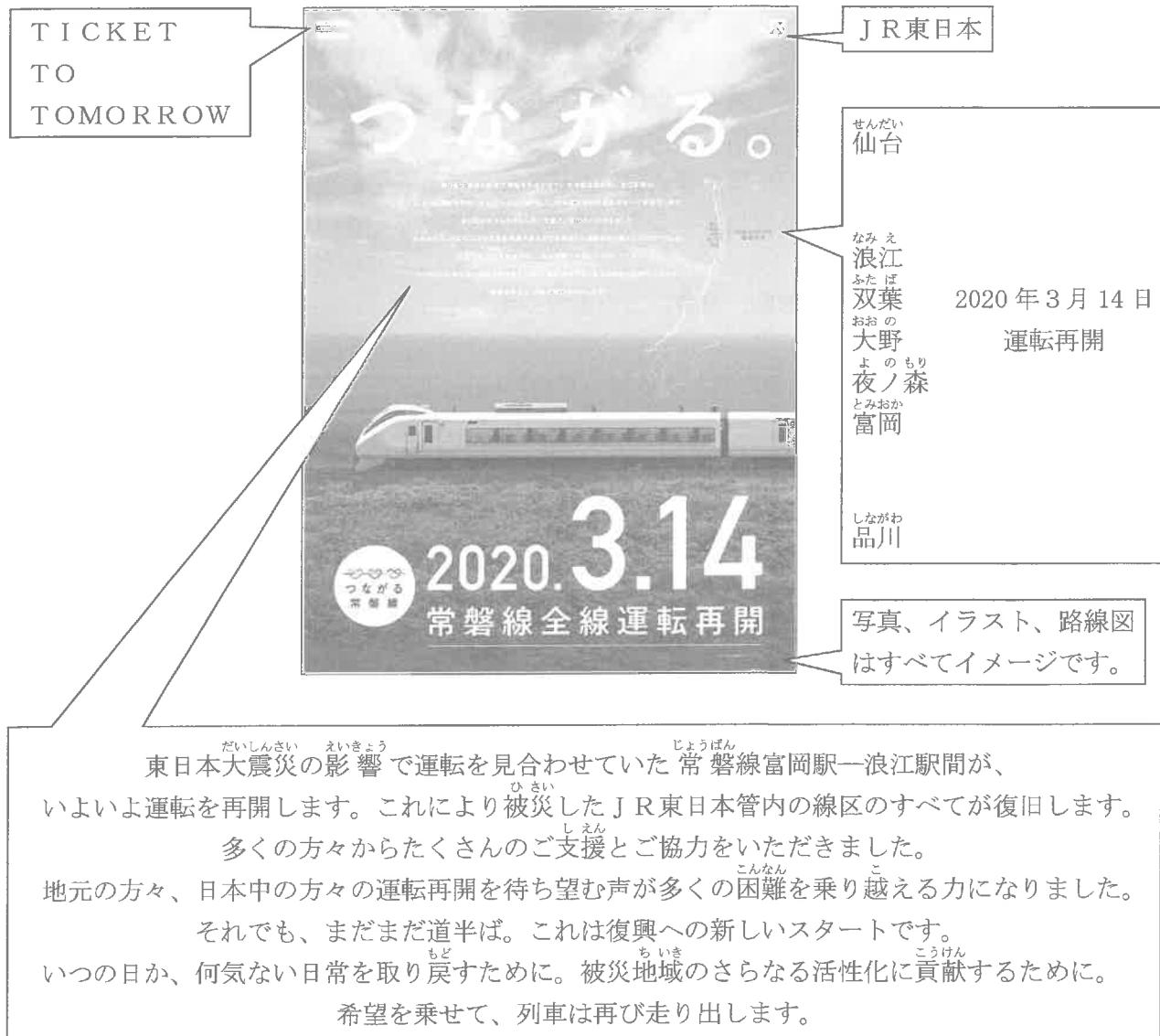
受検番号	第	番
------	---	---

1 別紙の【資料】について、次の問い合わせに答えなさい。

(問い合わせ) あなたは、【資料】からどのようなメッセージを読み取りましたか。読み取ったメッセージを、表現の工夫とその効果にふれながら書きなさい。

\* なお、【参考】として、【資料】の文字について、拡大などを行っています。必要であれば活用してください。

【参考】



(注) TICKET TO TOMORROW = 明日へのチケット。

管内の線区 = 管理・運営する路線や区間。

② わかばさんの学校では、ゼロ・ウェイストを宣言し、ごみ処理の工夫にとどまらず、ごみを生み出さない取組を進めている町を修学旅行で訪れました。

修学旅行後には、ふり返りとして、学びをどのような形で生かして持続可能な社会を実現していくのかをテーマに発表会を行います。発表会の様子は、保護者や地域の方、また修学旅行で訪れた施設の方にもインターネットを通じて発信します。

わかばさんのグループのメンバーは、発表会に向け、修学旅行の事前学習で活用した資料1・2に加えて、さらにごみ問題に関する資料3～5を集めて持ち寄り、話し合いました。

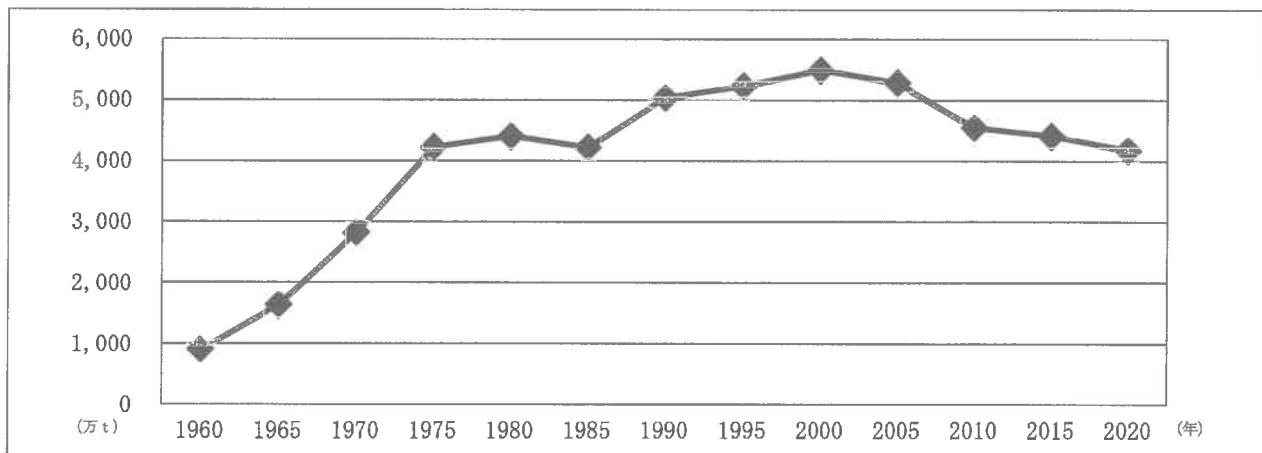
(注) ゼロ・ウェイスト = 無駄、浪費、ごみをなくすこと。

資料1 【日本における循環型社会に関する取組の歴史】(2014年)

年代	国の主な取組
1960年代 ～1970年代	<ul style="list-style-type: none"><li>高度成長によって増えた産業廃棄物や、公害への対策を行う。</li><li>環境を守るために廃棄物を処理する。</li></ul>
1980年代	<ul style="list-style-type: none"><li>廃棄物を処理する施設を整備する。</li><li>環境を守りながら廃棄物を処理する。</li></ul>
1990年代	<ul style="list-style-type: none"><li>廃棄物をなるべく出さないようにし、できるだけ再生利用する。</li><li>リサイクル制度を整える。</li><li>ダイオキシン類を含む有害物質への対策を行う。</li><li>廃棄物の種類・性状の多様化に応じて処理する仕組みを導入する。</li></ul>
2000年代	<ul style="list-style-type: none"><li>循環型社会の形成を目指した3Rを推進する。</li><li>産業廃棄物の処理対策を強化する。</li><li>不法投棄への対策を強化する。</li></ul>

(環境省のホームページをもとに作成。)

資料2 【日本国内における家庭ごみの量の推移】(2020年)



(環境省のホームページをもとに作成。)

資料3 【様々な機能を付け加えたごみ処理施設の様子】(2022年)

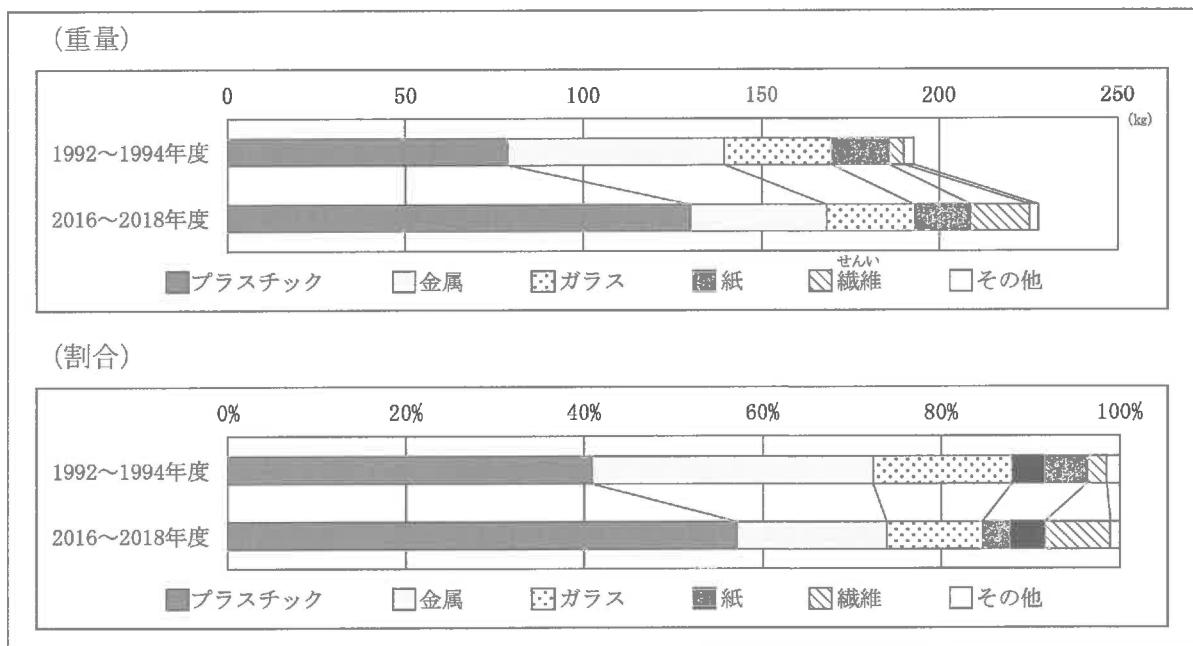


(広島中央エコパークのホームページより。)

(注) 汚泥 = よごれたどろ。

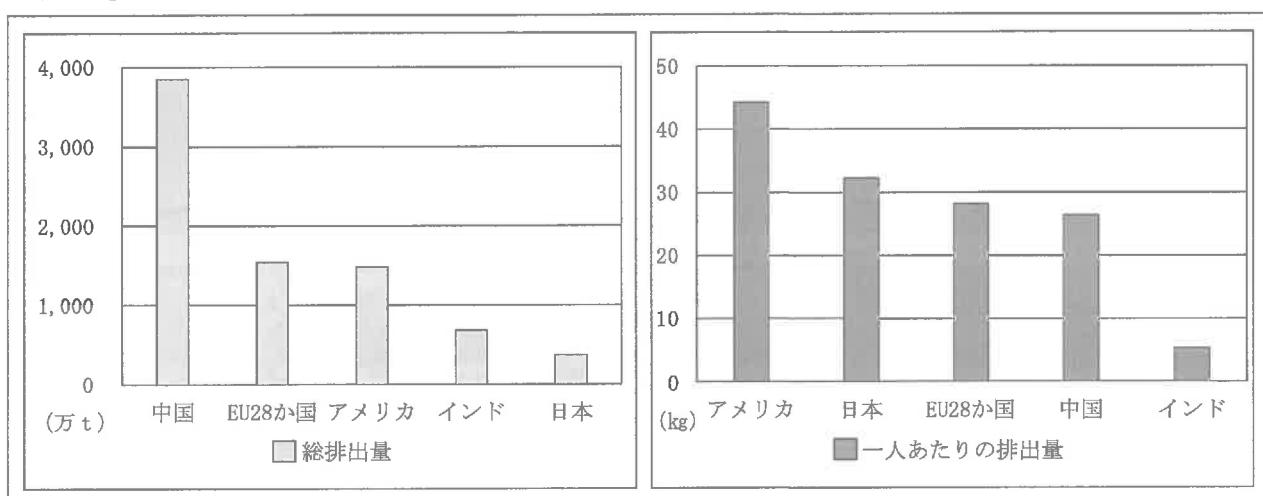
管理棟 = 管理の中心となる建物。

資料4 【海岸に漂着した人工ごみの種類別重量と割合の変化】(2020年)



(公益財団法人かながわ海岸美化財団のホームページをもとに作成。)

資料5 【主な国や地域におけるプラスチック包装容器の年間排出量】(2014年)



(環境省のホームページをもとに作成。)

(問い合わせ)

あなたがわかばさんなら、持続可能な社会の実現に向け、どのような課題があると考え、どのような解決策を提案しますか。次の条件にしたがって書きなさい。

(条件)

- ・資料3～5のうち1つ以上の資料を選び、資料1・2と関連付けながら書くこと。
- ・解答用紙の所定の欄に、あなたが選んだ資料の番号、<sup>らん</sup>課題及び<sup>およ</sup>解決策をそれぞれ書くこと。





i  
1



TICKET  
TO  
TOMORROW

JR  
JR東日本

# つながる。

東日本大震災の影響で運転を見合わせていた常磐線富岡駅—浪江駅間が、

いよいよ運転を再開します。これにより被災したJR東日本管内の線区のすべてが復旧します。

多くの方々からたくさんのご支援とご協力をいただきました。

地元の方々、日本中の方々の運転再開を待ち望む声が多くの困難を乗り越える力になりました。

それでも、まだまだ道半ば。これは復興への新しいスタートです。

いつの日か、何気ない日常を取り戻すために。被災地域のさらなる活性化に貢献するために。

希望を乗せて、列車は再び走り出します。



# 2020.3.14

## 常磐線全線運転再開

©JR EAST 2020

